

さすが岐高生

大矢 邦彦

(昭和44年～昭和54年)



その一

岐阜高校には山の家なるものがあつて一年生の夏休みには三泊四日の日程で林間学舎生活を送るのである。

クラスごとに出かけるバスの中のこと。解放されたリラックス気分で生徒達は楽しそうである。そんななか「R子さん。辺見マリの『やめて…』を歌って」と男子生徒からリクエストの声が上がった。「先生、歌ってもいいのですか」とRさんは私に対応をゆだねた。

担任の御墨付きをもらつてRさんは楽しく歌い、クラスは楽しく聴いた。

この時、担任の私は「イエスカノー」に迷つた。いろいろなご意見があるでしょうが、それはさておき、今振り返つて思うことは、私の心配、私の諸々の思惑は取越し苦勞に終わったということだ。

生徒達は、世相に流されず、健康で健全な生活を送っていたのだな。

さすが岐高生であり、恵まれた教育環境で学生生活を過ごしていたんだなあと。

その二

私が二年生の担任でのLHR時間のことである。生徒達には息抜きの時間という認識もあろうが、私は「生きる力」を培う大切な教育活動の場だと思つてゐる。

どのようなテーマで議事が進行していたかは思い出せないが、教室の最後列で将棋を指している二人の男子生徒を見つけた。

私は前に呼び出して有無を言わずピンタをとつた。突然のことです生徒たちは驚いた。

がことの経緯を知つて、LHRの議題は「私のとつた行為」についての時間に切り替わつた。喧々囂々、泣き出す女生徒もいた。

是々非々の討論ののち、私と当事者は和解し、生徒たちも今でいう暴力事件という認識ではなく、この場

限りで事態を收拾した。

LHRの議題を臨機応変に切り替えて、その事態に対応して行く能力の高さ、見識の深さを持ち合わせている岐高生に私は囲まれていたんだなあと、当時が述べられる。

その三

県教育委員会・学校指導課は（今は学校支援課と名称が変わつていますが）県立高校への三年に一度の合同訪問なる視察を行っています。岐阜高校では、五教科が研究授業を公開して、その後ご指導を受けるといふことになるのです。

数学科では、くじ引きで担当者を決めた。教科主任の富成先生になつて、私たちは万歳をして喜んだが…。

当然のことながら上司からお叱りを受けた。主任を授業担当者にするとは数学科は何を考へておるんじや。そこで再度の選考で、運悪く私に白羽の矢が当たつてしまいました。

指導案を作り、事前に目を通して

頂き指導課にも提出して当日を迎えた。

一年生の授業です。十分間の導入も済み、本論に入ろうとしたとき、生徒からの質問がでた。

それをきっかけにして、授業は指導案もどこへやら、生徒たちの様々な発想のオンパレードで終始して終わりのチャイムがなる。

覚悟して臨んだ研修会。思わぬ「お褒めの言葉」を頂いた。まさしく「これぞ生徒参加の生きた授業である」と。これまた、岐高生ならではの学習場面であると思つた。

受け身での授業ではなく、自ら主体的に学習していく習慣を身に付けている。さすが岐高生だ。

ここに紹介した私の数少ない事例に留まらず、皆さん方も至るところで目にされる岐高生の姿でしょう。百四十年の伝統のなかで醸しだされた教育環境が、これからも受け継がれ、岐阜高校生を育ていくことでしょう。

最後になりましたが、岐阜高校の益々の発展と岐阜高校同窓会の隆盛をお祈りし、また、拙文の機会を頂きましたことにお礼を申しあげます。

校長は生徒にとって どのような 存在なのでしょうか

渡邊 利昭

(昭和42年～昭和49年)



昨年の暮れに、今回の当番幹事としての意志固めもあってか、昭和四十八年三月卒の同窓会が開かれました。招きを受けて私も末席を汚させてもらいました。その折、何人かの出席者に「当時の校長先生は誰だったか覚えていますか」と尋ねてみました。結果は、どなたも記憶が曖昧でした。

私も校長職を経験しましたが、生徒にとっては、余り存在感がなかったのかなと、少し淋しい思いをしました。自分では、出来る限り生徒に接し、出来る限り生徒の心に影響を与える校長でありたいと努めてきたつもりでしたが、果たして生徒にはどのように映っていたのでしょうか。

中島、佐光両校長先生の思い出

昭和四十八年三月卒の皆さんが在校中、校長先生からどんな内容の話が聞かれたかをここに紹介します。

一年生と二年生の時は、中島周一校長先生でした。中島校長先生は、非常に温厚な方でしたが、しかし、甘えを許さない厳しい面もお持ちでした。「若者は社会や親に甘えてはいけない」とよく言っておられたことを覚えています。例えば、冬の生徒の登校時のことですが、学校へのマフラーは禁止というお考えはなかなか譲られませんでした。(当時は、即ち四十二年前は、「岐高生は帽子を被って堂々と行動せよ」という指導がなされていた時で、私も校門で着帽の指導に立った覚えがあります。なお、この頃は既に他校では帽子を被っている生徒は殆どいませんでした)マフラーと甘えの関係について、今、私に問われても、明解な回答はできませんが、岐高生たるものは矜恃を持って行動してほしいとの思いが教師間に強く漂っていたことは確かです。

中島校長先生の講話の中で、今一つ強く印象に残っていることがあります。それは「弱い者いじめ」「人権無視」は絶対に許さないという、校長先生の強い信念といってもよい態度でした。特に、障害のある人への心遣いを、生徒に機会あることに説いておられたことが記憶に残っています。

三十年、三十年後を見据えた話をしておられたようです。佐光校長先生といえ、もう一つ忘れられない話があります。それは、「先祖を大切にしないさい」という話です。古代中国思想は敬天の思想と崇祖の念の二つに要約できるかと思いますが、校長先生の話はその一つの崇祖の念と同根といつてよいでしょう。この話はどちらかといえば教師向けで生徒には今一つ響かなかったようでした。

二人の校長先生の話から、皆さんは何を得て何を心に刻んで卒業されましたか。

当時の私は、中島校長先生の話は、「成長過程にある者はその時期の課題をしつかり見定めて厳しく自分を鍛え、行動せよ」ということを、佐光校長先生の話は、「現在も大切だが先々を見据え、そこに心を置いて生きていけ」といつておられるのだと受け止めていました。時代背景や学校の持つ歴史伝統といった特殊性を考えて理解しないと、当時の校長先生の言葉は、誤解したり、真意を汲み取り違えかねません。さて、卒業生の皆さんは、二人の校長先生の話は今ならどう受け止められるでしょうか。

岐阜高校の教師として 充実し至福であつた 思い出

小池 亮一

(昭和54年～昭和60年)



私は岐阜高校に、昭和54年から6

年間数学の教師として勤務した。多
士済々の先生方と、勤勉、純真、真
面目な生徒諸君に恵まれ、公立私立
高校の教師であつた40余年の中で、
一番思い出として残る充実した至福
な日々であつた。

往時を慕って、私の「思い出」を
書いてみたい。

職員室

ある時、出入りの本屋さんが私に
「岐阜高校の職員室へいつお伺いして
も、先生方が常に採点や勉強をして
みえます。他の学校では見られない
風景で、落ち着いた張り詰めた雰囲
気が良いです」
と言われた。

「優秀で学習意欲の有る生徒に最高
の教育を」との気概で、先生方は研
究や研修をされていた。この様な先
生方に教えられる岐阜高校の生徒
諸君は、幸福だと思った。

鍛えられた私

私の担当する数学の授業では、ど
んな難問、奇問が出てきても誰かが
解答し、教科書に無いレベルの高い
質問に対しても反応して答えてくれ
る生徒がいた。「さすが岐高生」と心
強く思い、感心した。

幸い、私の関係した学年、組の生
徒諸君は生徒の本分を守り、生徒指
導課の世話になることは無かつた。

私は生活指導に時間を取られる心
配が無かつたので、教材の研究や指
導法の研究、取り分け大学入試問題
の解法に全力で励んだ。「数学の指導
では誰にも負けない」との自信と自
負を持つことが出来たのも、岐阜高
校の先生方と生徒諸君の御蔭と感謝
している。

校歌

私は岐阜高校の校歌が好きだ。84
歳になった今でも、気分が良い時は
岐阜高校の校歌が自ずから出てくる。

学校行事の終了した時、応援団長
の「アイン、ツバイ、ドライ」の号
令のもと全校生徒が力強く歌う様は、
感動的であつた。また、先生方も宴
会等の後は必ず校歌を全員で歌われ
た。これは、先生と生徒が一体となつ
て学校に誇りを持ち、校歌を大切に
する心の表れと思つた。私も岐阜高
校の教師である幸福感と誇りを持つ
て、校歌を歌つたのであつた。

桜のバッジ

「桜をかたどり真つ白な地の中心に
高の文字のバッジ」は清楚で品があ
り、岐阜高校の生徒の象徴とし相応
しい。

私の文机の引き出しに、大切な宝
物としてこのバッジが入っている。眺
める度に岐阜高校の先生方、卒業生
諸君のことを懐かしく思い出す。

私は30年余り前の思い出にのめり
込んでしまったようだ。林間学舎、

修学旅行、学校祭、部活動等書きた
いことは色々あるが、またの機会と
したい。

当時の生徒諸君は50歳を過ぎ、各
方面で活躍していることを見聞きす
る時、教師であつた喜び、幸福感で
いっぱいになる。ご多幸をお祈りし
ます。

岐阜高校の思い出

日比野 安平

(昭和54年〜平成元年)



私の教員生活の中で最も長く勤務した学校が岐阜高校だった。

勤務は普通科の学校が多かったが、実業高校や特別支援学校にも勤務した。大学院の学生の頃には教員免許があったこともあって、高校時代の恩師等から講師の依頼が幾つもあった。その中には定時制高校もあり、結局3つの高校で講師を引き受けた。不思議なことに、廃校になった定時制高校を除く2つの高校で、後に教頭や校長として勤務することになり、講師の経験が役に立った。

縁とは不思議なもので、また無駄な経験というものはないと、この頃特に思うようになった。

岐阜高校時代の思い出といえば、囲碁将棋部で岐阜県の優勝常連校となり、東海大会へ向かう駅のプラットホームに「打倒岐阜高校!」と書かれたものを見て会場入りする気分は格別だった。

会場へ入ると先ず対戦トーナメン

トのくじ引きがある。そのくじ引きで、岐阜高校と同じゾーンに入った高校の選手の口から溜息が洩れてくる。その溜息を聴くようになると試合は楽に勝てる。全国優勝経験のある強豪の東海高校等を後目に東海で5連覇していた頃、日本一にもなった。マスコミにもよく取り上げられ、テレビ局からは「全国大会前の一週間密着取材」なども受けた。テレビカメラが新幹線へも、宿泊先のホテルにも付いてきた。全国の強豪校から夏休みに「全て岐阜高校の日程に合わせ、岐阜まで出向くので、練習試合を組んで欲しい」とよく頼まれた。

当時の岐阜高校のチームには大人でも歯が立たず、練習相手がないので、プロの養成機関(奨励会)と練習試合をし、そこでも勝つという、ともかく強かったたので、当然プロからの誘いもあった。

私は岐阜高校から転出した後、40歳代後半から目まぐるしく転勤が続

いた。教員生活の最後は同じ岐阜地区の岐山高校に勤務し、ここで退官するものだと思っていたが、人生は分らない。退職の年齢の2年前に知事部局へ移り、岐阜県先端科学技術体験センター(サイエンスワールド)の館長として赴任し、更に60歳過ぎて3年間勤めた頃、今の美濃加茂市の教育長として理系の人間が欲しいということで、理系である科学館の館長職の私に声が掛かってきた。68歳の今もご恩返しのためで勤めさせて頂いて、1年を通して休日ほとんど無い。

今のこの勤務も、岐阜高校に長く勤めさせて頂いたことが無縁だとは思っていない。

他には岐阜祭の文化祭で、私の授業中の与太話が題材の「安平氏物語」なる映画が、クラスが変わっても続いて4本も出来た。ロケに当時の国鉄岐阜駅のプラットホームと列車を3時間ほど借りたいというので、駅

長さんに無理を承知で頼んだらOKが出て、これも岐阜高校ならではの思い出。

岐阜高校時代の私は若く、本当に楽しい教員生活を生徒諸君と共に送ることができて感謝してもしきれない。有り難いことに今でも、教え子の皆さんに言葉に尽くせないほどお世話になっている。

岐阜高校での思い出

大橋 則雄

(昭和61年〜平成6年)



岐阜高校には昭和61年から平成6年までの8年間の勤務でした。岐阜高校への赴任を告げられたのは教員生活4年を終えた年のことでした。前任校で野球部の顧問を務めていた関係で、赴任直前の3月31日に春季地区大会のリーグ戦の最終戦を終え、単身赴任先から翌日4月1日の岐阜高校での勤務に間に合わせるとい

う慌ただしい始まりでした。岐阜高校がどこにあるのか、岐阜高校がどんな学校なのかさえよく認識していなかった若輩者であった自分は、慣れぬ通勤時間帯の渋滞に戸惑い、最初の赴任者集合時間に遅刻するという失態からのスタートでした。(この苦い経験は今でも時間を大切にする習慣を培ってくれていると感謝しています)

岐阜高校での思い出は、生徒の皆さんの授業における真摯な姿勢や集中力は言うまでもありませんが、部活動、球技大会や文化祭・体育祭など何事にも一生懸命取り組む姿が印象的でした。そんな皆さんとともに汗を流した一瞬一瞬は、今でも何物にも替えがたい私の宝物となっています。

さて、その球技大会などにおいて、教員チームが参加していたことを覚えていますか。

春の球技大会ではソフトボールに、冬の大会ではサッカーにと、生徒には負けられないとの意気込みで教員チームが参加し、かなり善戦していたのではないかと思いますがいかがでしょうか。また、体育祭ではクラス対抗リレーに教員チームが挑戦し、大きな声援を受けたのもよい思い出です。そうした中、今でも鮮明に思い出す場面があるので紹介します。

ある年のソフトボールでの決勝戦での場面です。同点で迎えた最終回、生徒側の攻撃。1死満塁で、バッターが強烈なレフトへのライナーを飛ばした。レフトに入っていた先生

がこれを地上すれすれで好捕すると、即座にバックホーム。しかし、送球はそれ、この間に3塁ランナーに続いて2塁ランナーも生還することになった。センターを準備していた私は、2塁ランナーがタッチアップせずにスタートしていることを確認していたので、ボールを預かり、2塁ベースを踏んで、3アウトの成立と2塁ランナー・3塁ランナーの生還は認められないとアピールしました。すると、審判を務めていた硬式野球部員はきつぱりと3アウトの成立と、3塁ランナーの生還を明快に説明したのです。(どう説明するかわかりませんが)試合はこの1点が決勝点となつて教員チームは敗れたのですが。この場面は授業でも学校行事でも生徒と教員が真剣に勝負して高みを目指すよい校風があること、物事の根本(ここでは野球のルール)をよく理解してこれを実際の場面に生かす力が

さが如何なく示されているのです。こうした経験をおして、生徒の皆さんや職場を共にした先生方から本当に多くのことを学ばせていただきました。

昨年度までは、華陽フロンティア高校(旧華陽高校)に勤務していましたが、同窓生の方と大縄場の旧校舎の話題から深くお付き合いができたなど岐阜高校とご縁によって多くの出会いがあったことにも感謝しています。

取り留めのない文章になってしまいましたが、岐阜高校と同窓生の皆さんが益々発展されますことを祈念するとともに、皆さんとの出合いを宝物としてこれからも大切にしていきたいと思ひます。

培われているという岐阜高校生らしい

不思議な縁

丹羽 章

(平成2年～平成6年)
(平成25年～平成27年)



私は昭和46年4月に希望に胸を膨らませ憧れの岐阜高校に入学した。しかし、高校生活はそんなに甘くなかった。来る日も来る日も、学習面をはじめあらゆる面で、いつも劣等感に苛まれながら、全く自信のない高校生活を送っていた。先生方の授業は高度すぎる上に進度も早く、ほとんど理解困難なものばかりだった。毎日が苦痛で苦痛で仕方がなかった。しかし、担任であった辻村先生、高橋先生、後藤先生方の励ましのおかげで、何とか乗り切ることができた。そして卒業をするとき、この苦い思い出が多い岐阜高校の門を再びくぐることはもうないだろうと思った。

その4年後、大学生活を終え、岐阜県で教員生活を始めた。最初の赴任先は神岡町にあった船津高校で、理科の教員として5年間を過ごした。次に可児高校で7年間、その最後の年の3月、塚原校長先生から岐阜高校への転勤を告げられた。驚きと戸

惑いの気持ちを持つとともに、当時の私のように悩み苦しんでいる岐阜高生がいるなら、その心にしつかりと寄り添おうと決意した。そして、平成2年4月、再び母校の門をくぐった。久しぶりに見る校舎は高校生時代のままであった。しかし、生徒という立場から見えた岐高生と教員という立場から見えた岐高生は全く違って見えた。職員会議の資料には1年1組の担任とあった。ホームルームは北舎の2階の端にあり、普通の教室より廊下の分だけ広い特別な部屋であった。その教室に45名の生徒がいた。どの生徒も個性豊かで、生き生きしていた。とにかく底抜けに明るくすこぶる元気だった。しかし、表情には出さないが、学習面や人間関係等で密かに悩んでいる生徒も少なからずいた。私は、転入前に誓った通り、常に一人一人の生徒の心に寄り添うことを心掛けた。しばらく生徒たちと接する中、気が付いた。生徒

たちは、私が高校生であった時よりずっと素直で真面目で、しかも傷つきやすくなっていることが。そうであるならば、教える立場である我々教員の力量が問われると、授業研究と生徒の観察に、これまで以上に力を入れたことを思い出す。そしてその結果、こちらが頑張る以上に生徒たちは頑張り、期待に応えてくれた。生徒たちには、お互いを大切にする優しさで無限のエネルギーがあった。そんな生徒たちのおかげで、とても充実した教員生活を送ることができた。

さらに、平成25年4月、今度は校長として岐阜高校に赴任した。着任を新聞で知ってか、旧1年1組のメンバーが校長室に遊びに来てくれた。久しぶりに見るかつての教え子たちは、逞しく眩しいくらいに成長していた。校長としての3年間は生徒一人一人を輝かせることに集中した。1年目は「進化する岐阜高校」を、2

年目は「生徒の夢を叶える岐阜高校」を、3年目は「日本一を目指す岐阜高校」を標榜し、学校経営に取り組んだ。退職して、今までを振り返ってみると、まるで夢を見ていた様な気持ちでいる。今、こんなに深く岐阜高校に関わることができたことに不思議な縁を感じるとともに、岐阜高校に関わる神羅万象すべてのものに、心から感謝したい。

同窓生寄稿 あのことろ・このごろ

卒業してから何年経つのでしょうか。
「高校生」のあの頃は、夢を持って自由でたのしかった——
今、皆「社会人」となって、それぞれのフィールドで活躍しています。
そんな同窓生の近況を報告します。

還暦過ぎたら好きなことやって暮らす ——もう楽しくて楽しくて——

天野 哲孝（昭和48年卒）

めでたく昨年4月に37年間務めた小学校教員を退職。この頃教員が陥り易い「こころの病」に罹ることもなく、勤め上げることが出来ました。

岐高同窓会で有難いのは、主治医が同級生の小牧君、歯医者が同級生の伊藤君、薬剤師が同級生の福田君のお世話になれることです。私、大学4年間は岐阜を離れましたが、すぐに岐阜で就職。地元の岐阜パツハ合唱団に所属、30年以上大好きなパツハを歌ってきました。

また、早くに裏千家から茶名を頂き、同級生の白川君のお宅でお茶事をやって頂いたり、結構楽しい時間を過ごしてきました。

そして昨年4月よりきっぱり仕事から離れ、名古屋市立大学大学院で学生をやっています。あまり大きくない大学なので、「比較外交史研究」なんか受講生2名の少数で教えて頂いています。もう楽しくて楽しくて。ほぼ毎日県を跨

いで岐阜県と愛知県を往復しています。

学生生活をよりエンジョイするため、普通大学院生は入らない部活にも参加。茶華道部で優しい優秀な男美女揃いの学部生さんから若さのエネルギーをいつも頂いています。写真は昨年夏の茶華道部の合宿での一コマ。ご存知鎌倉は鶴岡八幡宮の前で写したものです。



「進路」を変えた一喝



43年前

しかし、今もはつきりと思い出せる「出来事」がある。

1973年

3月下旬、大学受験がおわり入学する大学を決めたわたしは、その報告に職員室を訪れた。報告の相手は、クラス担任である英語の永井先生であつた。机に向かつて仕事をされている先生をみつけ、その横に歩み寄つた。わたしは、「名古屋と早稲田と両方合格しました。迷ったのですが、早稲田に行くことにしました。」と、先生に報告した。

最後の「た。」が言えたかどうかだつた。即座に、職員室中に聞こえる大声が響き渡つた。先生は、「お前が考えていることはわかっている。東京を選んだのは『遊び』に行きたいからだ。大学は『勉強』するところだ。履き違えるな。どちらの大学が『勉強』するためにいいか、自分でもわかっているはずだ。」

市橋 克哉（昭和48年卒）

（名古屋大学理事・副総長）

図星だつた。東京に行きたいという甘い気持ちから出した「結論」だつた。何も反論できなかった。ただ小さな声で、「わかりました。名古屋にします。」と答えるのが精一杯だつた。この先生の一喝によつて、わたしは、その年の4月から名古屋大学に入つた。もちろん、早稲田を誇りに思われている方には、申し訳ない「出来事」である。なんでも私立より国立、とくに旧7帝大を尊ぶ「傾向」は、当時はまだ強かつたのである。

それから43年、18歳から今日まで身分に変遷はあるが、ずっと名古屋大学にわが身をおいている。カード入れのなかには、入学時発行のすり切れた、しかしなお有効の「大学生協組合員証」もある。この組合員証を使うたびにあの43年前の「出来事」がよぎり、先生の一喝がなかったら今ごろ何をしているだろうと、懐かしく思い出している。

43年の年月、名古屋大学も大きく変わった。法人化によつて運営費交付金は予算全体の3割まで下がった。産学連携による共同研究や知財

収入の増加等、自己資金を増やさなければ生き残れないのである。グローバル化も進んだ。学生一万六千人中二千人人は留学生である。欧米の大学とのジョイントディグリー、アジアを中心とした海外拠点の設立も進む。優秀な学生・研究者は、少子化

岐高英語の不思議



英語が嫌いだつた。岐阜高校で嫌いになつた。

旺文社の単語集を頭から覚える。それを毎日、試験される。熟語も例文もとにかく覚える。で、また試験。夏休みは、モームだのラッセルだの英米の作家の文章の和訳の宿題がいっぱい。まるで暗号解読だつた。

鍛えられたので、大学入試はなんとかなった。それはそれでありがたかつたけれど、外国語なんて面倒なものとしてそれ以上付き合う気はなかつた。

の日本だけではなく広く海外に求めなければ生き残れないのである。大学の存亡がかかる「変化」のなかにあつて、あの「出来事」を思い出すとき、43年前の大学と今の大学との間にある、あまりに大きな「隔たり」について考える契機になっている。

大野 博人（昭和48年卒）

だから大学では英語の授業にはろくに出来なかつた。なにせ岐高でたき込まれている。試験にだけ出れば、単位を取るくらいの点数は楽勝だとか高をくくっていた。そうしたら試験問題は「授業でやった小説のあらすじを書け」。手も足も出なかつた。なんだ役に立たないじゃないか、と岐高の英語への逆恨みが募つた。

が、若いときは自分に何が起ころうともわからない。ある日、寝転んで読んでいたパスカルの「パンセ」の一節に衝撃を受けた。突然、仏語で読めるようになった。突然、仏語で読めるようになった。第二外国語として授業は受けていたけれど、いい加減な学習で何も頭に残っていない。はじめからやり直した。

何から手をつけたか。

やっぱりこれが単語集の丸暗記だったんですね。自分でもあきれます。ほんとに。岐高であれだけ嫌ったやり方そのもの。まず一千語。次に二千語。熟語集も頭から……。多少、覚えたらもうルソーやデカルトの「暗号解読」に取り掛かった。

卒業して新聞記者になった。赴任したのは九州の佐賀。今度こそ外国語とは縁が切れるだろうなと思っていた。そこを振り出しに5年ほどサツ回り(事件担当)をしたら、ある日、本社の上司から電話がきた。

「パリに行け」

どっかの繁華街のパリって名前のクラブでやぐざの出入りでもあったのかしらと思ったら、本物のパリだ、留学させてやるという。仰天した。

その日から、私の座右の銘は「棚からぼたもち」になった。

留学から帰ったあとは国際報道の担当へ。パリのほかジャカルタやロンドンに駐在し、たくさんのお国をバタバタと走り回った。結局、仏語や英語での仕事を中心になった。今は日本にいるけれど、似たようなこと

をしている。それは嫌いではない。どっちも依然として下手くそではあるけれど。

どうやら私は、嫌いな外国語をい

篠田桃紅の

「103歳になってわかったこと」を読んで

遠山 淳子(昭和48年卒)



月日の経つのは早いもので高校を卒業してもう43年。何の変哲もない放射線科医として勤務して37年が経ちました。モニターとにらめっこしながら毎日臨床のCT、MRI、PET所見の報告書を書いております。

私が仕事を続けて、3人の子供と6人の孫を持つことができたのは、たまたま周りの人たちの協力を得ることができ、私がいい加減な性格で

やいや勉強することが、好きになってしまっていたのかもしれない。

岐阜高校の英語教育のおかげだろう。感謝している。

適当なだけだと思います。子供たちもこんな親にはさっさと見切りをつけ、早々にパートナーを見つけてくれました。私はちよつと頑張ると結核で入院し、風邪をこじらせ脱水でも入院。子供たちは保育園や学童保育、両方の親、ベビーシッターにお任せしたまま、夜中に帰り、寝息を聞いて、今日も無事に生きてたか、と一安心。たまに早く帰ると「逢いたかった、だーい好き」とがっしとハグします。なんとかがれずにまっすぐ育ってくれた子供たちに感謝しております。

いろいろなターニングポイントがありました。自分と家族が一番快適と感じられる方向に向かいました。やろうかやるまいか悩んだことで、やらなかったことの方が後悔することが多いように思いますが、ま

あ、これも運命だった、神様の声だったのだとすぐにあきらめます。自分の時間が無さ過ぎの毎日に、更年期障害が重なった頃に、もう辞めようと決心して辞職願いを書いて主人に文章の推稿してもらおうと思ったら「とりあえず50歳までやったら?」と。あまり先を見ずに近くに目標を置くと思外に続けられる物だと気がつきました。こんな風に悩みながらも何とか続けて、今では70歳までは働けるかなと思っています。ころりと考えが変わるのも私の特技かもしれません。

最近、篠田桃紅の「103歳になってわかったこと」を読みました。年寄りの本なんて読みたくなかったのですが、二カ月で40万部売れた? タレントでもないのに、駅前の本屋で手にして、なるほど私の生き方に通ずる所がある!とすぐに購入しました。本籍は岐阜県の人で、書道家、美術家、エッセイストです。岐阜現代美術館(関市)に彼女の作品があるようで、是非、彼女の作品にも触れてみたいと思います。私などはまだまだ若輩者です。おそれ多くて彼女の考え方と同じとは思いませんが、漠然とそうしたいと思っています。ことを名言を引用しつつ、独自の解

その時やりたいこと

釈を交えて、明解な文章で示してくれています。たとえば、百里の半ばを九十九里とす、群盲象を撫ず、の解釈では、人間のやることは九割九分わかつているつもりでもまだ半分ぐらいしか分かっていないと思えといっています。103歳の人に言われると説得力があります。これは医学にも通じます。私が大学時代に主なテーマだった認知症の研究など（視覚障害者としていないといけません）が集まって象を撫でた結果を発表しているに過ぎないのです。しかし、こういったデータの蓄積は必要なので研究は続けていかないといいけない。発表された文献を読み解くには結論を鵜呑みにするのではなく、また正しいか間違いかではなく象のどの部分を見ているのだろうと考えながら読み解きます。それぞれの専門分野にも当てはまることではないでしょうか。

私は勉強が嫌い、というかしたくなくて、高校に入る前も、入ってからもあまり勉強をしなかった。岐阜高校に入って生徒の多くが毎日、宿題はもちろんのこと、予習、復習、何人かは塾と、よく勉強しているのに驚かされた。何のために？大学に行くために？何がやりたいのか、よくわからなかった。

岐阜高校は当時、国立1期校を目指すのが当たり前という感じ。でも高校2年のときに先生から「君の今の実力では日本中の国立と名がつくところはどこにも行けないよ。」と言われた。でも大学に行くために勉強をしなればとは思えなかった。

大学は何か入り込めた。法学部に入ったので、何となく法曹界にと思い、司法試験受験サークルに。授業はあまり出なかったが、サークルではよく勉強した。すると勉強することが面白くなった。社会学、哲学系の本も読んだ。大学に入ってからが我が人生、最も勉強した時代であった。

4年になると就職か司法試験の勉強

林 哲哉（昭和48年卒）

強を続けるかを選ばなければならぬ。当時、合格率は2%未満、平均合格年齢は28歳程度。就職難の年で、家庭の事情もあり、司法試験浪人するわけにはいかなかった。学んだ法律が生かせるようにと公務員の道に進んだ。

しかし、役所でやりたいことができるといふとそんなに甘くはない。でも中堅どころになっていくと権限と責任が任されるように。仕事が楽しい、面白いと思えた。そして、幸運にも昨年の定年退職まで、多くのやりたいこと、やりがいのある仕事できた。

そして定年。ご多分にもれず、第2就職に。これもそれなりに面白い。

OBBOの会



広瀬 輝
（昭和48年卒）

そこに転職の誘い。

私は今年の4月からは名古屋市中心部の地域のまちづくり団体の事務局に就職する。そして、まちづくりを学術的に研究するため、社会人枠の大学院に入る予定。

年を経るたびにやりたいことが見つかり、やりたいことに専念できる。還暦後も幸せな人生である。



高校卒業以来続いている集まりがあります。バスケットボール部の昭和48年度卒業生を中心とした集まり、通称「OBBOの会」です。

この年の卒業部員はマネージャーを含め10名。ことあることに尻理屈

をつけて集まり盛り上がっています。岐阜周辺在住者7名が中心ですが、残る3名の東京在住者も都合がつけば加わります。規約がある訳でもなく、バスケの後輩や飛び入りゲストも歓迎するゆるやかな集まりです。

会が始まったのは40数年前の学生時代。夏休みなど誰かが帰省するところからとなく声がかかり、まず高校で後輩のバスケット指導(?)。「俺たちの頃はこんないい体育館はなかった」などと言いつつ一汗流し、その後はロンドン、スイスといったお店でグラス片手に、東京・京都・金沢等々の学生生活をとめどなく語り合いました。

社会に出ると財布にゆとりができただけでしようか、年一回の一泊旅行も始めました。皆忙しいのに集まるから不思議です。この頃OBOOの会の旗も作りました。きっと誰かが大切に保管してくれていると思います。

良き伴侶を得てからは、奥様はもちろん子供同伴という光景も見られました。が、やがて海外組も現れまず定期的な旅行が休止状態となり、子供の成長につれ、盆や正月の集まりも家族から見放され(?)、還暦を過ぎた今は結局発足当時の「旧体育館」

メンバーに戻りました。

それでも毎年正月2日だけは、特に召集はなくとも14時頃から酒と肴を手三々五々K君宅へ集まります(K君の奥様は我らがマネージャー)。そして、集まったメンバーから勝手にグラスを傾け、メンバー到着のたびに乾杯です。

卒業アルバムを広げながら繰り広げられるバカ話のなかには何度も聴いたような話も出てきます。時には当時を思い出した青臭い主張(?)もあります。それぞれが勝手なことを言い放ちますが、誰もが上機嫌です。「話の波長」が合っているわけではありません。言っていることに耳を傾け、否定せず、受け入れ、時には上手に聞き流すという、そこにある時間・空間への「構え」が高校時代から共有されているのだと思います。ですから誰もが文句を言うことなく、安心してこの流れに身を委ねているのです。

もちろん終了時刻も決めていません。各々の都合で帰っていき、全体のお開きは阿吽の呼吸です。

K君宅には迷惑をかけていますが、こんなOBOOの会が私は好きです。こうした普段の暮らしから遊離したような集まりが、大したことはない

けれどどこに引つ掛かっている心配事を忘れさせ、根拠はないのですが「なんとかなる」という気持ちにさせてくれます。そして、不思議と日々の緊張感が継続でき、時には理不尽とも思えるような仕事に精を出せるのです。

K君宅からの帰り道、いつもそうした余韻と充たされたエネルギーを感じながら、岐阜駅に向かう正月の

岐阜という町の余裕

岐阜高校を卒業し、進学して以降、学生時代社会人時代の40数年を北海道、首都圏で過ごし故郷である岐阜とはだいぶ疎遠になっていた。

昨年に秋に老齢の親父の介護を名目に久しぶりに岐阜に居を求め人生の玄冬を過ごし始めた。

ありがたきことに岐阜高校時代の友人たちが温かく迎えてくれ、楽しく新生活を始めさせてもらったのだが、やはり永く離れていると頭の中で思う岐阜とはそれなりにギャップがあり楽しんだり、いろいろ考えさせられたりしている。

例えば意外なことであるが、岐阜の町は水の匂いがしないということ

夕暮れを楽しんでいます。

OBOOの会、ゆるい集まりですが、なかなかほじけない繋がりが。それから大切にしたい繋がります。そして、時にはまだお元気な大竹先生もお招きして、楽しみたい繋がります。

追記・本稿の寄稿後、4月26日に大竹先生がご逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。



宮下 隆幸 (昭和48年卒)

がある。もちろん清流長良川を抱え水がないわけではない。が、繁華街である、駅前から市役所近辺までは、池も川もなく、残念ながら水のにおいがしないのだ。これは日本のそれなりの都市の中でも珍しいことだと

いうのを住んでらっしゃる方々は気づいておられるか。

文化の面でも、一つ寂しく思うところがある。それは角打ち・昼呑みの文化が消えていたことである。小生の中高時代、通りかかる酒屋の店先には、隠居や何やかやの遊民たちが升を片手にひと時の憩いを楽しむ姿が昼間から見られ、それは小生にとって、大人というものの象徴のように思え、早く大人になりたいという動機の一つであった。

昨今、角打ちは全国的に受け入れられ、小生の先住の地、湘南の鎌倉や大船でもいくつかの酒屋が角打ちをさせてくれ、地元民、観光客が酒屋を楽しんでいた。

なのに、久々の岐阜は古き城下町として、昭和文化を残しているだろうという小生の期待を裏切り、酒屋はチェーン店に姿を変え、角打ちという文化も消えてしまっていた。

もちろん、飲んだくれ、仕事もせずに風紀を乱す飲酒は小生も良しとするものではないが、町は経済用語でいうところの「スラッグ（無用の用）」というものが力となる部分があり、角打ち・昼酒のような遊民の姿が岐阜の町の余裕を見せるところではないかなあと、つつい夢

てしまう次第である。

ま、早い話、自分が飲みたいだけという指摘を否定するつもりは全くないのであるけれど、柳ヶ瀬の商店

いまでも変わらず (▽)



二〇〇六年三月。久しぶりに岐阜の地に戻ってきた。各務原市に

ある我が家の辺りはほとんど変わらないが、岐阜は随分と変わっていた。自分自身も新しい職場—中部学院大学短期大学部—に慣れるのに必死で、子育てと仕事でバタバタしてあつという間に時間は過ぎていった。高校時代の友人達とは、年賀状で細々と繋がってはいた。細々ととは言っても、私の中では、彼らとの高校時代の時間は非常に濃いもので、一年に一回の年賀状を見るだけで、その頃の彼らの顔や一緒に行動していた姿が思い浮かぶのだった。それが、二〇一四年には、J（J）とは大学時代も私が彼女を訪れたり

街の片隅で友人たちとしばし、盃を片手に気炎を上げる自分の姿は小生の岐阜生活のなかで輝いているように思えるのだ。

Dairymple ターリプル 規子 (昭和58年卒)

して、大切な思い出がいっぱい！とM（いつも明るいMら3人組とお喋りは忘れられない！）に、そしてやはり同じ年に、東京から久しぶりにIがやってくるということ、1年の時から7人グループで行動していた私達メンバーのうち、4人が集まった。Cが勇敢にも高校に連絡を取り、初代合唱部のIと共に現在の岐阜の合唱部を見学させて頂いた。全く昔の面影のない校舎から見るグラウンドがああ頃タイムスリップさせてくれた。歴史資料室（と言うのだろうか？）の中を歩きながら、懐かしい思い出が無限に湧き出てきた。4人で話をしていると時間が止まってしまったかのよう。Hは相変わらず、健康的な明るさで私たちをホッとさせてくれるし、Iのおっとりマイペースな雰囲気はあの時のままだった。私とCも、きつ

とあまり変わらず、平均的な普通の日本人（と私は勝手にCを同胞と思っているのだが…）で、35年ほど前の話に大いに盛り上がり、このまま永遠に時間が止まればいいのに…という思いだった。「またね。」という言葉を出すのをお互いに渋って、駅に着いてからもしばらく何となく話をしていた。やっぱり高校時代の友人はいいなあ。

今度は、カナダにいるはずのN、今回会えなかったKとOも一緒に集まるといい。いつも一緒にいてくれたYはどうしているんだろう。彼女にも会いたいな。同窓会では、Sにも会えるかも…なんて、私の心は、さらにあの頃の世界が広がっていくばかりである。



岐阜で過ごした忘れえぬ 1年9か月

境田 洋（昭和58年卒）

私は高校卒業後に岐阜を離れ、大学を卒業して三菱銀行（現在の三菱東京UFJ銀行）に入行後も大阪、東京での勤務が続き、岐阜に戻るのは年に一度の正月だけという生活を約25年続けてきた。

そんな私に平成24年1月に岐阜支社勤務の辞令が出た。初めての支社長としての勤務地が故郷の岐阜ということに運命の不思議さを感じながら着任したわけだが、1年9か月という短いながら密度の濃い日々は、生涯忘れえぬ貴重な体験になった。

銀行の支社長の仕事とはお取引先企業を訪問して経営者にお会いすることに尽きると思っているが、岐阜支社がカバーするテリトリーは大垣・多治見・中津川を除いた岐阜全域とかなり広いため、岐阜市内だけではなく、南は羽島から北は高山まで、西は本巣から東の美濃加茂まで駆け回る日々を過ごした。そして、その中で岐阜を支える個性のかつ人間味に溢れる経営者の方々と接する機会を得ることができたのは最大の思い出となった。岐阜の企業は「も

のづくり」
日本を支える製造業の割合が比較的多いわけだが、岐阜に本社を置きながらも中国・東南アジアなど世界各地に果敢に製造拠点を展開している会社も多数存在し、世界を飛び回って激務をこなされる姿を目の当たりにして頭の下がる思いをした。



そんな経営者の中に多数の岐阜高校出身者がおられることは申し上げるまでもないが、ある母校出身の経営者の一人に依頼されたのが、平成24年度の岐阜高校のPSセミナーで講師の一人として話すことである。人前で話すのが得意ではないので通常はお断りするところを、母校の先輩かつお取引先の社長からのご依頼ということで、内心は渋々お受けしたわけだが、結果として忘れえぬ素晴らしい思い出となった。完成して間もない新校舎の素晴らしいさに感動

し、在学当時は入った記憶のない校長室で校長先生とご挨拶をさせて頂き、そしてまだ入学して半年程度の幼なさが残る後輩たちの前で話をするというのは自分にとって貴重な体験となった。講演終了後暫くして、お礼状と共に講演を聞いてくれた後輩からの感想文まで送って頂いたのも感激であった。

「想い続けること」「挑み続けること」 諦めないこと

榎原 清隆（昭和58年卒）



いつかは自分が一国一城の主になりたいと、親や周りの反対もありながら、東京に飛び出し、慶應義塾大学経済学部を卒業。そして「自ら機会を創りだし、その機会によって自らを変えよ」という社是に共感しリクルートに入社しました。当時、周りは名の知れた大手企業に普通に入社する中でリクルート入社。当時の皆の反応が「ふーん、…」という感じだったことを懐かしく思い出します。

リクルートでは13年、人事・営業・コンサルタントのキャリアを積みましました。リクルート時代も皆と同じは嫌だと、失敗することも多かったで

そして、岐阜に戻ったことにより、それぞれの場で活躍している同級生諸君に再会することができたのも大切な思い出となった。

現在私は東京の支社で勤務しているが、現在の自分を支えているのは間違いなく1年9か月の岐阜での忘れえぬ日々である。

すが、周りがやらないようなことばかりに拘って仕事をしていた気がします。一九九八年からは、当時千億から三千億に成長するユニクロの柳井社長や澤田副社長ら経営ボードを相手に組織人事のコンサルティングを約3年半行ったことで随分鍛えられ自信を持つようになったことを記憶しています。

そして二〇〇〇年35歳でコンサルティング室の7人の同志とリンクアンドモチベーションを創業しました。二〇〇八年に東証一部に上場し、現在ではグループ12社、従業員二〇〇〇人になります。創業役員として採用事業の立上、東海支社の立上、学習塾の立上、そして昨年の4月にはまた一つ会社を立ち上げました。これまで落ち着くことなく、ずっと「未体験の新しいことばかりしてきた」というのが自分です。

社会人になってからを振り返ると、とにかく我武者羅に走り続けている自分ですが、「自分が成りたい・なし得たい」と思ったことを一つ一つ形にしてきた、その根っこには、岐阜高校の校歌にある一節「百折不撓、努めてやまず」があります。

岐阜柔道部の記憶

文武両道。言い響きだ。この言葉を耳にするたびに岐阜高校柔道部の日々を思い出す。私が岐阜柔道部で汗を流したのは一九八〇年から八二年。同柔道部の歴史の一頁として当時の思い出を綴りたい。

岐阜に入学し、初心者ではあった

タイトルにある「想い続けること」「挑み続けること」「諦めないこと」は、リンクアンドモチベーション創業5周年の際に、世の中に言いたいと全国放送で放映したTV-CMの中の一節です。自分自身が信条にしているものでもあります。うまくいかないことや苦勞することばかりの方が圧倒的に多いですが、諦めることなく、挑み続けることで、「いつかはいつかきつと来るです」。

いつまでたっても、この気持ち・スタンスで物事に取り組むことで、しんどいながらも（笑）、自分自身が変化・成長し、刺激的な日々を歩むことができます。岐阜高校で学んだ「百折不撓」をこれからも大切に生きていきたいと思っています。

瀧口 博明 (昭和58年卒)



が、柔道部の門を叩いた。一年の頃

の顧問は川島正秀先生。ある日の練習後の訓話で川島先生が「『継続は力なり』と言うが、私は『継続は義務だ』と思う。」とおっしゃった。その言葉の重みをその後の人生で幾度となく実感することになった。

二年に進級する際、川島先生の後任として、県下でも厳しい指導で知られた古賀悟先生が岐阜に赴任された。古賀先生は勝負師の眼差しで練習を見つめ、気が抜けなかった。時々技術指導をしてくださり、これが非常に効果的かつ実践的であった。古賀先生の指導を受けてから、私自身も昇段試験での対戦で勝利を重ねることができた。

当時の練習で思い出に残っているのが、毎週土曜日の午後に、古賀先生の前任校である岐阜工業まで出稽古に行ったことである。こちらは数人で相手は二十人以上、完全にアウェイの状態で、次から次へとかわってくる相手と対戦し、練習が終わる頃には畳に倒れ込むほどであった。

このような練習の甲斐があつて、岐阜柔道部は力をつけ、一九八一年秋の岐阜市の大会では準優勝だった。それも決勝で県立岐阜商業と対戦し、延長戦にもつれ込んだ末での結果である。一九八二年のインター

ハイ予選（団体戦）は県大会に駒を進め、県下で大垣日大高に次ぐ強豪校の中京商業と対戦した。残念ながら敗れたが、相手方には後に新日本プロレスの闘魂三銃士の一人として活躍する橋本真也がいた。

それから、三十年以上が経った今でも岐阜柔道部の記憶は色あせない。苦勞を共にしたメンバーと会えば当時の思い出で盛り上がる。嬉しかったのは、昨年の首都圏の岐阜同窓会で柔道部の後輩が声をかけてくれ、世代を超えてつながりができたことである。

二〇一二年、岐阜の柔道場が新築されたお祝いに、同期で「百折不撓」の横断幕を贈呈した。最近、少子化の影響か柔道部の部員も減少傾向で、指導者の先生の確保も容易でないと聞く。しかし、柔道は日本の武道であり、国際的なスポーツでもある。そして、岐阜柔道部こそ文武両道を体現できる場であると信じてやまない。是非、現役岐阜高生の皆さんに柔道部の門を叩いてほしいと思う。

文武両道

授業が終わるやいなや剣道場へ。「明日は模試かあ」とか言いながら着替え始める先輩たち。勉強は勉強、剣道は剣道。毎日剣道をするのが当たり前と言う文化があった。練習時間は1時間。帰宅したら切り替えて、授業の予習・復習。勉強の出来はイマイチだったが、文武両道、岐阜でのメリハリのある生活は性に合っていた。

インターハイに出場する、と心に決めていたのでしたら効率的に上手くなれるかを常に考えていた。強豪校に進学した中学校時代のライバルたちは、めきめきと力を付けていたし、他府県から「剣道留学」してきた「剣道エリート」達もいて、普通にやったら勝てるはずがない。嫌だったのは、強豪校の監督が負けた選手を殴ったりすること。「これは間違っている!」。競技は楽しむもの。岐阜高校からインターハイに出ることで、殴られなくても強くなれることを証明したいという気持ちもあった。

岐阜の顧問は村瀬隆平先生。大学で剣道を始めながら一九六五年岐阜

土屋 裕睦 (昭和58年卒)



卒業後 30 有余年を経て剣を交えた村瀬先生と

国体では教員チームを日本一に導いた伝説の剣士。体罰とは無縁、生徒の自主性を尊重しつつ、飽きっぽい私を楽しく導いてくれた。例えば稽古をお願いしても簡単には打たせてもらえない。ただし、時折「うーむ、今のは良かった」などとおっしゃるので、「よーし!」とやる気に火がつく。先生の技術を見て盗む「見取稽古」。手足に重りを巻いて体を鍛えながら通学したり：今でいうイメージトレーニングやウエイトトレーニングになるうか。振り返ってみると、インターハイに出場できたことよりも、うまくになりたい一心であれこれ創意工夫したことが、その

後の人生において財産となった。

高校卒業後は筑波大学・大学院に進み、海外留学なども経てスポーツ心理学の研究者となった。現在は大阪体育大学で「メンタルトレーニング論」を講じる傍ら、オリンピック選手やプロ選手の心理サポートを担当している。二〇一三年の体罰問題の際には、文部科学省の「タスクフォース」委員として日本のスポー

クイズの為に明け暮れ学ぶ

『アタック25』『クイズ\$ミリオネア』等、数多くのクイズ番組に挑戦してきた僕は、二〇一三年、TBSの『THE クイズ神』という番組で優勝し、念願のクイズ日本一の称号を手にすることができた。

その素養は、岐阜高校で培われた、といっても過言ではない。

岐阜高校時代、僕はクイズ番組での活躍を夢み、勉強に勤しんでいた。当時はクイズ研究会もなく、実に孤独な勉強だった。

市販のクイズ本を読み込んだり、クイズ番組のビデオを繰り返し観たりは勿論だが、当時僕が実行していた「マニアここに極まれり」の勉強

ツ界から暴力を根絶するための活動をした。今は二〇二〇年東京オリンピックを目指す若いアスリート達に、競技引退後も幸せな人生を送れるような教育プログラムを提供している。岐阜で経験した「文武両道」の精神が、日本のスポーツ界のみならず、東京二〇二〇を契機に世界に広まり、グローバル・スタンダードになることを夢見ている。

安藤 正信 (平成5年卒)



法は、山川出版社『日本史用語集』『世界史用語集』のマイナー用語の暗記である。

用語集収載の歴史用語には、それが何種類の高校教科書に掲載されているかを示す、頻度数が付されている。「承久の乱」「モンテスキュー」

といった泣く子も黙るメジャー用語たちが、そのうしろに⑯や⑰を掲げ、あたり一面を睥睨するいっぽう、『三教指帰』（さんごうしいき・空海の出家宣言書）「イブン・マージド（バスコ・ダ・ガマの船団を導いた水先案内人）」といった泡沫用語たちは、そのうしろに申し訳なさそうに⑱を従え、ひっそりと息づいていた。受験にさほど重要でないこれからマイナー用語も、いつの日かクイズで役立つに違いない、と大脳皮質に刻み込んだものである。

また、授業でも、多くの先生がクイズに役立つ知識を伝授してくれた。

国語のO先生は、漢字テストの最後に毎回おまけの1問として「柳葉魚（ししゃも）」「満天星（どうだん）」等の難読漢字を出題してくれたし、日本史のM先生は、「江戸時代に港に置かれた運上所とは、現在でいうどんな機関？」「税関」といった日本史にまつわるクイズを毎回出題してくれた。理科のI先生は、ミズクラゲの成長過程を「プラヌラ、スキフラ、ストロビラ、アーンド、エフィラ」と力技で、地質年代を「カンブリア、オル、シル、デボン、石炭紀、二、三、ジュラ、白、第三、四」と美

しい七五調の韻律で教えてくれた。当時憶えたり接したりしたこれらの事柄は、四半世紀近くを経た今も鮮明に記憶しており、クイズ番組などの大舞台で役立ったことも、一度や二度ではないのである。

三足の草鞋

メールやSNSが連絡方法となった今でも私には一年に一度同じ時期に会う高校時代の友人がいます。数少ない男友達。一度もクラスは一緒になりませんでした。が、明るい彼に沢山の笑いを貰い、受験もなぜか楽しく経験できました。そんな名田典弘君とは毎年彼のお墓でお話ししています。十五年前のあの日、偶然名田君と路上でお会いして他愛もない話をして別れました。その数時間後、早すぎる死を迎えられたと聞いた時は平和で満ちた生活がひっくりかえるような現実が起ることを知りました。他にも同じ学年では二名の方がご逝去されました。心からご冥福をお祈りします。

さて私は思いがけず家業の旅館を継ぐことになり岐阜へ戻りはや二十年。三人の子の育児と宿の仕事、そ

SF作家のアイザック・アシモフによれば、人間は無用な知識が増えることで快感を感じることができると唯一の動物である、という。今後も、仕事に支障のない範囲で、クイズの道を追究していきたい。

伊藤 知子（平成5年卒）



して観光産業の担い手にと三足の草鞋で邁進しております。

当館は江戸末期より岐阜市の長良川河畔で旅館を営み続けて、お陰様で本年百五十六年目。宿名である「十八楼」の名は岐阜に滞在した俳聖松尾芭蕉翁が記した名文「十八楼の記」より頂戴しました。芭蕉翁は記で「かの有名な中国の瀟湘（しょうしょう）八つの景色と、西湖の十の地」も一つにしたような清々しい眺めを望むこの建物を十八楼とでも言いたいことだと記しておられま

す。芭蕉に褒め称えられた記は当地の誉れとして後世に語り継がれました。

父に請われ大学卒業後に十八楼へ入りましたが、当時はサービスも施設もバブル時に甘えたままの時代遅れの企業で、お客様も団体から個人客へ変わる難しい時期に直面しておりました。正直、この業界から抜け出すためにどこかへ嫁がねばと考えていましたが、そんな気持ちとは裏腹にサラリーマンだった主人が養子に入ってくれることになりました。偶然にも祖父も父も養子であり、三代続いております。



大正時代の十八楼

いよいよ私も本格的に経営に参画し十八樓のブランディングに力を注がなければと決意。観光ホテルから老舗旅館ヘリノベーションを果たすために、不在であった女将の座に立ちましたが、右も左もわからない新米女将。頼りにしたのは長良川温泉若女将会の先輩女将達でした。会は発足して十一年になりますが、本当の姉妹のようなお付き合いが続いております。宿の隣同士は「宿敵」だという人もいますが、私は「宿命」を持ったかけがえのない仲間だと思っています。

こうして試行錯誤しながら、本物

の価値を求める時代に合致した当館の宝に磨きをかけ、年間十五万人のお客様をお迎えしています。守るものは守り、変えるべきことは革新を続ける選択を続けております。そしてつくづく感じるのは、子育てと経営の共通点が多いこと。人をやる気にさせる事、相手の喜びを自分の喜びとする事、多面的な考え方や効率的な時間の使い方が必要な事などは全く同じですね。同窓の皆様にも応援して頂き、今後とも地元可愛される町づくり・宿づくりに努めて参りたいと存じます。

近況報告



圓戸 恭子（平成5年生）

案に相違して現在、各務原市にある水族館に勤めております。

高校生だった頃は文系クラスにいたのですが、大学で理系に転向し、学生時代は両棲類や昆虫の研究をしていました。夜ごと池に通ってサンショウウオを捕まえたり、山を歩き回って朽木を叩き割り、出てきた虫を集めたりと、それは楽しい毎日でした。

水族館では環境学習を担当する部

署に所属しており、休日に子どもたちを引き連れて川で魚取りをしたり、遠足で来館した小学生達に生き物のお話をしたり、といった仕事をしています。

またそういった業務の合間に、展示生物が斃死した場合には標本を作ったりもしています。生物を飼育している以上、生物の死は免れえませんが、死んだ個体を標本にすることで、分かってくるのがとてもたくさんあります。骨格標本作りもそのひとつで、骨を観察することによって、その生物の生活史や進化の歴史、個体のたどった一生など、実にさまざまなことが分かるものです。カエルを骨にしてみたら、後脚にひどい骨折の治った痕があり、しばらくジャンプすらできなかったであろう生前の苦勞が偲ばれたり、鳥の胸の骨に見たことがある形の軟骨を発見し、焼き鳥屋で食べているのはこれか、と感動したり。やり始めてみると実に面白くて、今これを書いている机にも、ナマズの頭骨や組み立てかけのカピバラの前足が転がっています。

こういった仕事は私にとって半ば趣味のようなものです。やっていることは学生の頃とそれほど変わらな

いのですが、好きなことをしてお金がもらえるというのは、ありがたいことです。そして、展示を通じて自分が好きなものについて誰かに伝え、楽しんでもらえるのは、とても幸せなことだと思います。

もちろん、水族館に来る方たちのほとんどは、私達スタッフが伝えたことのすべてを見てくれるわけではありません。でも、ひとつでもいいので生き物の面白さを知ってもらい、何かの拍子に「あ、これ水族館で見た」と思い出してもらえような、そんな仕事ができるといいなあと、日々思っております。



積み重ねた時間と次世代に引き継ぐもの

杉山 千世（平成5年生）



長男が高校生になりました。ぐるっと一周、一世代分時間が過ぎたのを感じています。自分の子供が高校生こうなると、自分の高校生時代を思い出しては、無意識に子供と比べてしまいます。私が高校生だった頃は…というのは子供の嫌いな言葉ですね（笑）。というわけで昨年は長男と一緒にいくつかの高校見学にもついて行き、ついでに（といっては申し訳ないのですが、私の希望で）岐阜高校も見学がてら久しぶりに訪れたのですが…。建物が新しくなったのは聞いていたのですが、あまりの変わり様にびっくりしてしまいました。正直懐かしいというよりは、自分の思い出の大事なものが1つなくなってしまったような寂しさの方が強かったのを覚えています。帰りは私が市電から歩いていった道のりを歩いて、いつも見ていた景色を、これ

も多少変わってしまったていたのですが、懐かしい気持ちで歩きました。もちろん今は路面電車もありません。複雑な気持ちで帰ってきました。そしてそんなタイミングで突然かかってきた同窓会の電話。またまた私は高校時代をあれこれ思い出すことになったのです。今度は一緒に過ごした級友との再会！正直、高校を卒業して以降、高校の友達とは疎遠になっていました。そんな私を見つけてくれたみんな！本当にありがとうございました。連絡をいただいたときにはすでにいろんな人が役割をもつて同窓会に向けて動いていました。そして二〇一六年初めに行われた学年同窓会で、懐かしい顔にたくさん会うことができました。仕事関係以外で新たな人との出会いが少なくなっていた私ですが、同窓会で懐かしい顔に会って、いろんな人生を歩いているみんなの話を聞いて元気をもらえました。これまで疎遠だった私が言うのもなんですが、これからはこの縁を大事にしていきたいと思っています。そして、20年以上ぶ

りなのに、なぜかスラスラと歌えてしまった校歌。たった3年間歌っていた校歌がこんなにも私に染み込んでいるんだ、と実感し、高校生活がいかに私の土台になっているかを再確認したのでした。

40歳を迎えて、40歳にならないと見えなかったものが見えるようになってきました。きつと、これからも10年、20年とさらに月日を積み重ねると、その時でなければ見えないものがまだいろいろあると思います。その時の景色を楽しみにこれからは色々な経験をしたいと思っています。そして、級友のみんなが見ていく景色も共有できればと思っています。

高 岐高だより

第122号

平成28年3月1日
岐阜県立岐阜高等学校
PTA会長 岩屋真二
印刷/ヨツハシ印刷
発行/毛利 慶子

CONTENTS

● 未来に向け羽ばたけ	学 校 長..... p1
● 艱難の先に	PTA 会 長..... p2
● 「百折不撓」「自強不息」	3年学年委員長..... p2
● 贈る言葉 き・せ・き	3年学年副委員長..... p2
● 進路指導の取り組みについて	進路指導部..... p2
● 卒業おめでとう。～自ら問いを立てる～	進路指導部..... p3
● センター試験 自己採点結果一覧	進路指導部..... p3
● 大学入試センター試験	進路指導部..... p3
● 2016年度大学入試出願状況(現役生のみ)	進路指導部..... p4
● センター試験を終えて後輩に伝えたいこと	進路指導部..... p5
● PHASE TWO! 岐高生、未来へ	3年学年主任..... p6
● 3年間の想い出	3年学年会..... p6
● 3カ年皆勤者・同窓会幹事	3年学年会..... p6
● 第2回学校評議員会について	教 頭..... p7
● 第五回「科学の年子園」全国大会5年連続で出場	理 科..... p7
● 平成28年度コース登録の結果	教 務 部..... p7
● 部活動だより	特別活動部..... p8
● グローバルリーダー養成事業から珠玉の言葉・I	学校活性化委員会..... p8



▶ センター試験後始会



さて、本校では、私が敬愛する川西俊吾(北陸先端科学技術大学院大学)教授がフアシリテーター役をつとめ、5、6人のグループに分かれた生徒が外国人留学生を囲み、「リーダーシップについて」

長い冬の厳しい寒さも峠を越し、暖かい春の訪れが感じられる季節となりました。3年生の保護者の皆様方、ご家族の皆様方、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。また、本日まで本校の様々な教育活動にお寄せいただきました有形、無形のご支援・ご協力に對しまして心より厚く御礼を申し上げます。

140余年の歴史と伝統を誇る本校の校歌に「百折不撓 つとめて止まず」という一節があります。ここから「百折不撓」「自強不息」という本校の校訓が生まれました。また、時代錯誤的な言葉だと思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、校歌の中には「国家のために明け暮れ学ぶ」という言葉もあります。私たち職員一同は、3年間をかけて、この本校の魂を生徒諸君の胸に刻んでもらえるよう努力をしてみました。

さて、本校では、私が敬愛する川西俊吾(北陸先端科学技術大学院大学)教授がフアシリテーター役をつとめ、5、6人のグループに分かれた生徒が外国人留学生を囲み、「リーダーシップについて」



学 校 長
丹羽 章

未来に向け羽ばたけ

「高齡化社会について」などの課題を英語でディスカッションするという、エンパワーメントプログラムを実施しています。これは、5日間のプログラムで、最初は、戸惑い恥ずかしがっている生徒たちが、プログラムが進行するともに、自分の殻を破り、グループの仲間や留学生との壁を取り払っていきます。プログラムのあまりのハードさに、心が折れそうになる受講生に対し、川西教授は、その都度ポジティブシンキングの重要性を説き、励まされます。そして最終日を迎えました。事前課題は「Have a Dream」です。私は、他の受講生の前で、身振り手振りを交えながら、堂々と自分の将来の夢を英語で語る生徒たちの姿とその内容に心から感動しました。そして、クロージングセレモニーで川西教授が、締めくくりに言葉を口にされました。「The future is not waiting for you. It is waiting to be created by you. ... Please keep reminding yourself, "YOU ARE THE FUTURE."」

若者には無限の可能性が 있습니다。私は、その可能性を時間たつぷりかけて追い続けてほしいと思います。

保護者の皆様方には、今後とも、本校の教育に對しまして絶大なご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、卒業生の皆さんの「未来」に「幸」多かれと祈ります。

長い冬の厳しい寒さも峠を越し、暖かい春の訪れが感じられる季節となりました。3年生の保護者の皆様方、ご家族の皆様方、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。心よりお慶びを申し上げます。また、本日まで本校の様々な教育活動にお寄せいただきました有形、無形のご支援・ご協力に對しまして心より厚く御礼を申し上げます。

さて、本校では、私が敬愛する川西俊吾(北陸先端科学技術大学院大学)教授がフアシリテーター役をつとめ、5、6人のグループに分かれた生徒が外国人留学生を囲み、「リーダーシップについて」



前期・岐高祭を振り返って

前期生徒会長 秋山 恭輝

岐高祭、最高の三日間でした。企画・運営を務める身でありながら、自分が一番楽しんでたという気持ちになりました。今年も準備段階でトラブルが多発し、当日に間に合うのか不安でした。乗れ移の制作や部対抗リレーの仕様変更など、しかし執行部、文化祭実行委員、そして皆さんのおかげで「当日に間に合わせる」程度ではなく「全校が心から楽しめるもの」として、提供できたのではないかと思います。当日の盛り上がりは本当にすごいものでした。会長として一番不安だったオープニング・セレモニーでは、多くの人に笑っていただき嬉しかったです。岐高祭は何といっても全校生徒によって創られるものです。今年も工夫を凝らした出し物や、努力の結晶ともいえる感動的な劇など、素晴らしい作品ばかりでした。体育大会も、応援団を中心として非常に盛り上がるものとなりました。

岐高祭が終わりました。終わってしまいました。みなさんは今年の岐高祭を日一杯楽しめましたか？僕はとても充実した三日間を過ごすことができました。岐高祭は夏休みの限られた時間の中での準備となります。それに加え、部活や勉強などの両立、並立もあり。そんな中、自分で時間を作り、精一杯準備に取り組んでいる姿が多くあり、岐高祭を成功させる、という思いが伝わってきました。また今年は、昨年に続く女装男装コンテスト、投票方法や立て看板の変更、などがありました。今後も伝統ある岐高祭の中で、生徒の意見が反映され、岐高祭が新しくなっていくでしょう。

三年生は、最後の岐高祭やりきれましたか？最後の岐高祭が、最高の思い出になっていけば幸いです。一、二年生は、来年もまた岐高祭があります。ぜひ、来年の文化祭は今年よりも数段レベルの高い岐高祭にしてください。期待しています。

最後になりましたが、文化祭の成功は岐高生一人一人の努力のおかげです。そして、文化祭実行委員、生徒会、先生方、その他、岐高祭の運営を支えてくださった多くの方々、本当にありがとうございました。

岐高祭を終えて

前期文化委員長 西脇 正就



後期生徒会発足

後期生徒会長 イダマルゴダバヌカ

改めまして、後期生徒会役員に就任していただき誠にありがとうございました。就任して下さったみなさんの期待に応えられるよう、執行部一同、熱い思いを胸に、全力を尽くします。

前期と比べて大きな行事の少ない後期は、私たちの学校生活を見直すいい機会だと思っています。今年度後期は、「歴史を変える」を一つのスローガンとし、伝統ある岐高の生活をよりよい形で未来につなぐために、みなさんとともに突き進んでいきます。そのためには、みなさんに生徒会をより身近に感じていただけるよう、最大限の努力をしたいと思います。

生徒会の活動に、何卒ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



後期生徒会役員
北村 大輔 会長
大崎 健 副会長
伊達 誠 書記
伊達 誠 会計
伊達 誠 庶務
伊達 誠 総務
伊達 誠 文書
伊達 誠 広報
伊達 誠 体育
伊達 誠 文化
伊達 誠 生活
伊達 誠 保健
伊達 誠 安全
伊達 誠 環境
伊達 誠 福祉
伊達 誠 国際
伊達 誠 情報
伊達 誠 芸術
伊達 誠 体育
伊達 誠 文化
伊達 誠 生活
伊達 誠 保健
伊達 誠 安全
伊達 誠 環境
伊達 誠 福祉
伊達 誠 国際
伊達 誠 情報
伊達 誠 芸術

体育大会を終えて

前期体育委員長 齋野 翔

大成功に終わった二日間の文化祭の後、体育大会が行われました。今年の体育大会は例年とはひと味違う、特別なものになりました。まず、午後からの天候が心配されたため、プログラムが変更されました。それによって、前半の応援合戦が一番最初の種目になったり、棒引きや棒倒しが午前中に行われたりしました。また、応援合戦では団員に動きが加わり、一層迫力のあるものになりました。応援団の演習もすばらしかったです。そして最後には赤団、黄団の同点優勝という珍しい結果で幕を閉じました。

今年の体育大会は変わったことがたくさん起きましたが、楽しむ姿や仲間を応援する姿は例年通り、いや例年以上でした。みなさん、最高の盛り上がりがありました。



平成27年度

部活動の主な成績・活動状況

12月7日現在

体育系

部名	活動・試合結果など
硬式野球	秋季高等学校野球大会岐阜地区予選 Bブロック 岐阜 0-2 岐阜総合 岐阜 6-2 各務原 岐阜 1-4 岐阜第一 岐阜 0-3 岐阜工
陸上競技	岐阜県高等学校新人陸上競技対抗選手権大会 男子100m 6位 森(2年) 男子4×400mR 4位 新名・美和・森・山田(2年) 女子100mH 4位 太田(2年) 女子400mH 6位 太田(2年) 女子4×100mR 6位 川崎(1年)・太田・渡野・星立(2年) 岐阜県高等学校駅伝競走大会 男子 9位 女子 9位
サッカー	岐阜地区高等学校総合体育大会 1回戦 岐阜 1-1 羽島北・PK勝 2回戦 岐阜 0-3 長良・ベスト8 全国高校サッカー選手権岐阜大会 2回戦 岐阜 4-1 羽島 3回戦 岐阜 0-2 大塚工業
バスケットボール	岐阜地区高等学校総合体育大会バスケットボール競技 男子 2回戦 岐阜 74-29 岐阜城北 3回戦 岐阜 88-35 岐阜山 準々決勝 岐阜 50-119 岐阜農林 ベスト8 女子 2回戦 岐阜 114-22 山崎 3回戦 岐阜 53-47 加納 準々決勝 岐阜 24-68 岐阜農林 ベスト8 岐阜県高等学校選手権バスケットボール大会 男子 2回戦 岐阜 61-45 加茂 3回戦 岐阜 81-62 岐阜第一 4回戦 岐阜 67-57 中津 準々決勝 岐阜 38-126 岐阜農林 ベスト8 女子 2回戦 岐阜 55-57 岐阜北
ソフトテニス	岐阜県高等学校新人大会地区予選 男子個人 準優勝 岐阜・川出(2年) ベスト8 藤井・小川(1年) 岐阜県高等学校新人大会 男子団体 3位
水泳	岐阜県高等学校新人大会 200m自由形 優勝 森井(2年)
卓球	岐阜県高等学校新人卓球大会学校対抗の部 岐阜地区順位決定戦 男子9位 岐阜県高等学校新人卓球大会学校大会の部 男子 1回戦 岐阜 3-1 土岐紅鯉 2回戦 岐阜 1-3 清流
バドミントン	新人大会岐阜地区予選 男子団体 5位 県大会へ出場 女子団体 7位 男子個人 ダブルス 9位 藤井・林(2年) 県大会へ出場 女子個人 シングルス 9位 太田(2年) 県大会へ出場 新人大会県大会 男子団体 1回戦 岐阜 0-3 岐阜北 男子個人 ダブルス 藤井・林組 出場 女子個人 シングルス 太田 出場 第49回岐阜県バドミントン選手権2部大会 女子8位の部 準優勝 大塚(2年)
柔道	岐阜県下高校柔道新人大会兼全国高等学校柔道選手権岐阜地区予選 男子個人 60kg級 ベスト8 藤井(2年) 73kg級 3位 栗田(1年) 県大会へ出場
剣道	第43回岐阜県高等学校剣道大会 男子団体 1回戦 岐阜 4-1 吉城 2回戦 岐阜 0-3 高田清風 女子団体 1回戦 岐阜 0-4 高田西 第54回岐阜地区高等学校総合体育大会剣道競技 男子団体 1回戦 岐阜 0-1 羽島北 男子個人 ベスト16 大野(2年)・伊藤(2年) 女子団体 予選リーグ 0勝2敗 女子個人 ベスト8 藤田(1年) 県大会へ出場 第61回岐阜県高等学校剣道新人大会 男子団体 1回戦 岐阜 2-0 多治見 2回戦 岐阜 0-2 郡上 女子団体 1回戦 岐阜 0-3 関
軟式野球	第54回岐阜地区総合体育大会(軟式野球の部) 優勝 第64回岐阜県高等学校軟式野球岐阜(新人)大会 出場 第54回岐阜地区高等学校総合体育大会男子団体 準優勝 第43回岐阜県ジュニアテニス選手権大会U17 男子ダブルス 優勝 長尾・坂井(2年) 平成27年度岐阜県高校テニス新人大会 男子団体 1回戦 岐阜 2-3 可児 女子団体 1回戦 岐阜 5-0 瑞浪 2回戦 岐阜 0-3 帯広大可児 ベスト8
テニス	理杯 岐阜県高校ハンドボール選手権 2回 1回戦 岐阜 10-18 富田 岐阜地区高等学校総合体育大会 1回戦 岐阜 11-24 岐阜南 岐阜県高等学校ハンドボール新人大会 岐阜地区予選 1回戦 岐阜 21-17 岐阜工 2回戦 岐阜 7-38 岐阜北
ハンドボール	

文化系

部名	活動・試合結果など
書道	第39回全国高等学校総合文化祭書道大会書道部門 特別賞 藤田(3年) 第14回岐阜女子大学全国書道展 大賞 小森(1年)・大賞賞 馬淵(1年) 第24回国際高校生書道展 団体部門 東海地区優秀校 個人部門 秀作賞 松永(3年) 入賞 相宮・中野・今井・藤田・国井・藤沼・西村・岡田(3年) 坂井(2年) 岐阜県高等学校総合文化祭書道展 個人作品の部 最優秀賞 丹羽(2年)
演劇	第63回岐阜県高等学校演劇岐阜地区大会 奨励賞 岐阜県高等学校総合文化祭演劇部門 岐阜北地区合同公演 賞受賞
音楽	第82回NHK全国学校音楽コンクール岐阜県コンクール 全賞 第55回岐阜県合唱コンクール Aグループ 全賞 第82回NHK全国学校音楽コンクール東海北陸ブロックコン クール 奨励賞 岐阜県高等学校総合文化祭合唱部門出演(大塚市民会館) 第39回全国高等学校総合文化祭2015 器楽部わくわく文芸自然科学部門 ポスター発表 優秀賞(文化庁長官賞全2位) 演劇(「琵琶湖」水素分子におけるイフナとアマゴの混同問題の解明) 岐阜県高等学校総合文化祭自然科学系部活動研究発表交流会 優秀賞(本年度全国大会出場決定) 演劇「守りふるとのふたミサンショウウオ」～保護活動の推進と 生物活動の解明～ 第14回AITサイエンス大賞自然科学部門 奨励賞 日本化学会第24回東海地区高校化学研究発表交流会 奨励賞「新の筆跡メッキに関する考察」 討論賞 藤田(2年)・坂井(1年)
自然科学(生物)	岐阜県高等学校総合文化祭自然科学系部活動研究発表交流会 優秀賞(本年度全国大会出場決定) 演劇「気柱に定常波がでると音が消える」 並井(2年)・牧野(2年) Google Science Jam 2015 研究発表 演劇「左腕麻痺による半永久機関構造」山内(1年)・高橋(1年)
自然科学(化学)	第53回岐阜県音楽コンクール岐阜県大会 高校A組の部 全賞 きらめき賞 打楽器 寺町(2年) 第58回中部日本吹奏楽コンクール岐阜県大会 高校A組の部 奨励賞
自然科学(物理)	岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト 並井(1年) 県大会出場
吹奏楽	第6回岐阜県創作グラブプリ 奨励賞 岡田・澤澤(1年) 第7回高校生朗読こぼれコンテスト 入賞 長崎・松井(2年) 文化祭のバザーでは、どちらかというに餅を多くの方に食べて いただきました。
ESS・ディベート	岐阜県高等学校写真コンテスト 奨励賞 大西・渡部(2年)・澤澤(1年) 岐阜県高等学校総合文化祭 奨励賞 加藤・大塚(2年) 加藤・青木・清水(1年)
図画	第35回東海地区美術選手権大会 女子個人 6位 森本(2年) 第39回全国高等学校総合文化祭美術部門 団体戦出場 伊達・松本(3年) 岐阜県高等学校総合文化祭美術新人大会 個人戦優勝 森本(2年)
美術	岐阜県高等学校総合文化祭美術・工芸展 絵画部門 入賞 赤谷沙里・宮田真奈・林由佳子 日比野希穂・三浦有生子(2年) 林和希・加藤千穂(1年) 第68回平成27年度 岐阜県美術展覧会 洋画部門 入賞 宮田真奈 第40回岐阜二紀グループ展 招待出品 宮田真奈

同

部名	活動・試合結果など
図書	図書部でカウンター当番や図書館だより「読む少女の読書三昧」の作成 を行っています。 12月に図書講演会(2部)、1月下旬に新春カルタ大会を開催します。
家庭クラブ	第36回全国高校生ホームプロジェクトコンクール F賞 山中(1年) 優秀賞 北村(1年) 努力賞 板垣(1年) 努力賞 安田(1年) 文化祭では、食育セミナーとバザー、あんしんハウス木工サービス センターの利用者の方を招待する催しを行いました。手作り各種茶ゼリー をご購入いただきありがとうございました。
英語科	第9回岐阜県高等学校英語スピーチコンテスト 奨励賞 藤田(1年)

グローバルリーダー 養成事業から 珠玉の言葉

本校は「県立高校改革リーディングプロジェクト推進事業」の指定を受けて「グローバルリーダー養成事業」を展開しています。この事業は「様々な体験を通して強い刺激を得ることにより生徒の心に火をつける」ことを目的としています。

今年四月以降に実施されたプログラムに講師としてお招きした方々の珠玉の言葉を紹介します。

職業・学問体験プログラム

医療系 五月二十五日(月)

・講師：杉山保幸(岐阜市民病院)
★フライングブレーを百回するのは、エラーを一つでもしないように努めなさいと、若い頃に先輩の医師から教わりました。

工業芸術系 七月二日(木)

・講師：角田 寛(デザイナー)
★僕の強みは複数の国の文化を知っていることです。若者はもっと大胆に食欲であってほしいです。

生命農学系 七月二三日(月)

・講師：福田美智

(シンジエンタ・ジャパン側)

★道伝子組み換え食品の安全性に関して正しい知識をもった上でなお、道伝子組み換え食品を食べないということも、選択肢の一つです。

社会文化系 七月二日(木)

・講師：山内真太郎(報徳報徳)
★努力は運の確率を上げるために重要な要素です。

医学国語系 九月一日(火)

・講師：河合達郎(ハーバード大学)
★日本の医師免許ではアメリカで治療を行うことができません。四〇歳でアメリカの医師国家試験を受けた時がこれまでに最も大変でした。

国際系 一〇月二八日(水)

・講師：伊勢崎賢治(東京外国語大学)
★戦争を起こす動きは人々の心の中にあるのです。

社会文化系 一〇月六日(金)

・講師：池尻良平(東京大学)
★人生の主題を「から」に変えよう。

基礎講演会

一〇月四日(水)

・講師：宮脇敦史(理化学研究所)
・講演：生命を模る「Genetic Engineering」
講師の宮脇氏は本校を一九八〇(昭和五五)年に卒業され、現在は理化学研究所分子科学総合科学研究所センターの副センター長です。

★頭がよく同時に悪くなくてはならないわけで、これは絶妙なバランスです。

最先端科学体験プログラム

「JAXAホンモノ体験二〇一五参加報告会」

一〇月八日(木)

・報告者：梅田麗央、安藤大晃
・講師：清水章夫、宮田景子

(JAXA宇宙教育センター)

★多くの企業の様々な職種が宇宙に関わっていて、その協力がなければ宇宙開発はできません。

国際交流体験プログラム

国際交流系 七月九日(木)

・講師：Tate Craig Leane

(ハーバード大学)

★リベラルアーツは、関心のあるテーマを「どのように学ぶか」を教えてくれます。技能の習得が目的ではなく、純粋に興味をひかれるから学ぶということを大切にします。「学び方」を学びながら幅広い分野について見識を深めることで自分自身を形成し、人として教養を身につけることを目指すのです。



エンパワメントプログラムの参加者

ALTの紹介



Hello everyone!
My name is Sarah and I am the new ALT! I am from Canberra, the capital city of Australia. I love to travel the world and learn about new cultures, play and watch sports like hockey and Australian football, and eat delicious foods! I have already fallen in love with sushi and ramen here! I'm so excited be working at Gifu Senior High School! Please come and say hi to me whenever you can. I can't wait to chat with you all!
よろしくおねがいします Sarah

エンパワメントプログラム

八月一〇日(月)～一四日(金)

・講師：川西俊吾

(北陸先端科学技術大学院大学)

★インド工科大学で教えたときに出会った学生は、日本が戦後の数十年間で社会インフラを先進国並に整備したことに学び、生涯をかけてその仕事に取り組みと話ししてくれました。その真摯な姿勢に心を打たれました。

月曜

2016年(平成28年)1月4日 月曜日

教育 8

いま 学校で

輝く目、響く声

高校は、いま

岐阜高校は、明治の創立以来「百折不撓、自强不息」を校訓とし、142年にも及ぶ長い輝かしい歴史を刻んできました。そしてさらなる進化を目指して、本校では、平成25年度から県教育委員会会の指定を受け、20年後、30年後の社会をリードする人材を養成するために「グローバルリーダー養成事業」を展開しています。

この事業は、次に記す五つのプログラムからなり、「生徒の心に火を付ける」を合言葉に、企画・運営しています。まず「職業・学問体験プログラム」では、各界の専門家を招き、体験を含めた授業を行っています。「最先端科

学体験プログラムでは、自然科学の新たな技術や考え方を取り入れた授業を行っています。国際交流体験プログラムでは、外国の大学に学ぶ大学生や大学院生を招き、全て英語で討議し、発表などを行うエンパワーメントプログラムと米国東海岸への海外研修を行っています。「各種大会体験プログラム」で、数ある高校生の競技大会のうち、「科学の甲子園」と「模擬国連大会」の二つに絞り、チームで課題に取り組む解決していく姿勢を学ぶとともに、全国の選ばれた高校生と交流する機会として行っています。最後の「基調講演会」では、グローバルリーダー

グローバルリーダー養成

岐阜

ーとして活躍している本校の卒業生から、学問や研究などについて話を伺う機会として、他の講演会とは一線を画した内容で実施しています。

以上のように、岐阜高校では、学力を身につけるだけにとどまらず、本校がS-I(スクール・アイデンティティ)として掲げる「トータル・パーソン」(知性と精神性を高い次元で統合した人間)

を具現化すべく、生徒と教員が丸となって新たな歴史を作ろうと日々頑張っています。

話は変わりますが、この3年間、私は県高等学校長協会という立場で、高等学校・特別支援学校の創立記念式典に参加しています。昨年は岐阜工業高校、大垣工業高校、加納高校にお邪魔をしました。会場に着くと、駐車場係や受付係の生徒



エンパワーメントプログラムに参加した生徒や外国人留学生、岐阜市大綱場、岐阜高校(昨年8月)

が素晴らしいあいさつと笑顔で迎えてくれます。どの式典も生徒たちのピンと張りつめた緊張感の中、厳粛な雰囲気で行われています。式典の終盤には、生徒代表あいさつ、校歌斉唱が行われます。壇上から、来賓や全校生徒に向かって堂々とあいさつをする生徒代表の姿、その後、全校生徒が一体となって誇らしげに大きな声で母校の校歌を斉唱する姿には、いつも心から感動させられます。

今どきの高校生は…と否定的に言われる方がいるかもしれませんが、私が触れ合う高校生たちは実に素直で真面目です。そして何よりも、若さと可能性にあふれています。国内外に課題山積の未来に、心から幸多かれと祈らずにはいられません。

(岐阜高校長 丹羽 章)

2016年度 大学入試結果

大 学 名	合格者数	大 学 名	合格者数	大 学 名	合格者数
旭川医大	1	神戸市外大	2	岐阜女子大	1
北海道大	2	九州歯大	1	岐阜聖徳学園大	6
東北大	2	酪農学園大	2	岐阜医療科学大	2
茨城大	1	岩手医大	1	愛知大	7
筑波大	1	東北薬大	1	愛知医大	10
群馬大	2	自治医大	4	愛知学院大	5
千葉大	2	獨協医大	1	愛知工業大	3
お茶の水女子大	3	白鷗大	1	愛知淑徳大	8
東京大	21	埼玉医大	1	金城学院大	18
東京外大	1	青山学院大	8	椋山女学園大	1
東京工業大	1	北里大	5	中京大	16
東京農工大	1	杏林大	1	中部大	6
一橋大	2	慶応大	31	豊田工大	5
横浜国立大	10	国際基督教大	1	名古屋外大	9
富山大	5	駒沢女子大	1	名古屋商大	1
金沢大	10	実践女子大	1	名古屋女子大	1
福井大	1	芝浦工大	6	南山大	94
信州大	4	上智大	9	日本福祉大	1
岐阜大	56	昭和大	1	藤田保健衛生大	10
静岡大	8	成城大	1	名城大	107
浜松医大	2	創価大	2	日赤豊田看護大	3
愛知教育大	1	大正大	2	長浜バイオ大	1
名古屋大	42	拓殖大	1	京都産業大	1
名古屋工大	22	中央大	40	京都女子大	4
三重大	3	津田塾大	5	京都薬大	3
滋賀大	3	帝京大	2	同志社大	99
京都大	20	東海大	2	同志社女子大	3
大阪大	9	東京家政大	2	佛教大	1
神戸大	6	東京女子大	2	立命館大	116
奈良女子大	1	東京女子医大	1	名古屋学芸大	4
島根大	3	東京農大	4	大阪工大	1
広島大	5	東京薬大	1	大阪産大	1
徳島大	1	東京理大	38	関西大	9
香川大	1	東邦大	1	近畿大	9
宮崎大	2	東洋大	1	摂南大	1
国際教養大	1	日本大	8	関西学院大	6
福島県立医大	1	日本女子大	2	神戸薬大	3
首都大東京	2	法政大	10	福山大	2
横浜市立大	2	武蔵野大	1	防衛医科大学校	4
福井県立大	1	武蔵野美大	1	防衛大学校	2
岐阜薬大	11	明治大	30	水産大学校	1
愛知県立大	1	立教大	6	岐阜市立女短	4
名古屋市立大	16	早稲田大	52	岐阜保健短	1
滋賀県立大	2	昭和音大	1	国公立医学部医学科	38
京都府立医大	1	北陸大	1	※防衛医科大学校・自治医大含む	
大阪府立大	6	朝日大	4	※浪人生を含む	

応援団 々 歌

- 一、金華城頭月冴えて
蓋世の英雄信長の
万象すべて沈黙なり
雄図の跡に苔むしむ
- 二、嗚呼熱血児信長の
ありし昔を偲びては
覇業は夢と消え果てど
健児無量の想ひあり
- 三、熱血受けし一千の
桜の香り身に沁みて
心一つの健児等が
根城構えて百三十余年
- 四、悲壮の風の吹き荒び
校の徽章の桜花
混濁の波逆巻けど
身もて護る健児団
- 五、熱血なる敵の迫るとも
破邪の剣をぬき立てば
寄せ来る仇は多くとも
竜車に向う螳螂ぞ
- 六、敵に鬼神の勇あるも
我には紅き血潮あり
仇に天魔の計るるも
カラくれなぬを見ずや君
- 七、さはあれ心せ同胞の
桜の花の散るあらば
香りは永き百三十余年
散るその下に死なん哉
- 八、誘う嵐に散らされず
朝日に匂ふ桜花
尽くせし心の現はれて
その花の下に我れ立たん

凱 旋 歌

- 一、泰山厲と消ゆるとも
我が身に功なりせば
- 誓つて桑梓に見えじと
出でし華陽の健男児
- 二、されど見よ見よ今はこれ
身に大功の光そへ
- 姿を変えて悠々と
我が大丈夫は帰来ぬ

平成28年度 岐阜高校同窓会総会運営委員会 名簿

業 務	卒 年	責 任 者	副責任者	委 員			
運営委員長	S48年	杉山 保幸					
運営副委員長	S48年	坂井田 勉					
	S58年	石原 幸喜					
	H 5 年	松尾 直樹					
事務局(総務)	S48年	森岡 篤郎	夏目 克彦	岡田 明彦	服部 哲明	水野 秀則	加藤 文夫
	S58年	河田 誠					
	H 5 年	伊藤 知子					
財 務 部 会	S48年	加藤 玲子	窪田 一夫	林 隆 也			
情 報 部 会	S48年	加藤 文夫	加藤 玲子				
広 告 部 会	S48年	夏目 克彦	小 川 晃	小嶋昭次郎	伊藤 恒久	鈴木真規子	松村 康正
				安田 雅則	国島 久嗣	小川 正弘	森 也寸志
				堀 田 緑	若井 寿子	北尾 敬子	長谷川公子
				祖父江達子	熊田 和子		
	S58年		大 塚 茂 記	加藤 雅也	加藤 展之	平井竜太郎	酒井 義正
	H 5 年		岡本 達明	白木雄一郎	杉崎 圭子	飯塚ひとみ	林 享
				岩佐 将充	川村規子(兼)	伊藤知子(兼)	後藤 兼寛
				木野村茂樹	濱 口 礼	後藤栄一郎	
会 報 部 会	S48年	神谷 悟	鷺見 明美	長尾 裕子	伊 藤 聡	所 礼子	宮下 隆幸
	S58年		中神 邦彰	西山光知子			
	H 5 年		古田 希雄	伊藤 恭啓	豊吉 章子	北村 咲代	奥村 真一
情 報 部 会		加藤 文夫	加藤 玲子				
動 員 部 会	S48年	坂井田 勉	大野 智彦	鈴木 康道	内藤 佳彦	高島 一志	木澤 葉子
				鷺見 誠一	板橋 賢一	苅 谷 忠	戸谷 哲郎
				岩田 雅子	山田いづみ	亀井 三博	小塩 浩司
				近藤 三隆	岡 田 治	市橋 克哉	広 瀬 輝
	S58年		岩井久美子	大 野 元	遠藤 竜也	若山 忠裕	鳥澤 昌紀
				大野 正人	片桐 基晴	加納 克徳	江崎 雅夫
	H 5 年		小林 直樹	坂田 顕文	金森 紀仁	宮崎多可子	堀 薫
				間嶋 康夫	田中 みち	浅野 拓郎	岩田 茂明
				小川 貴彦	川村 規子	大野健一郎	鈴木 康也(兼)
				野倉三知代			
動員(在京)		西垣 範隆	林 立 宏	杉山 俊幸			
会 場 部 会	S48年	川島 明	島 崎 悟	富田 信介	衣笠 文彦	福田 俊二	宮下 隆幸
			細江由紀子	衣笠 秀子	若原 信子	野田 裕子	遠山 淳子
			清水 英次	野倉三知代			
	S58年		野々垣貴美子	長谷部元靖	尾藤 喜昭	森屋 和喜	渡邊 幸司
				中原桂一郎			
	H 5 年		早矢仕英史	松原 啓泰	大徳 康司	加藤 友美	浪上 主税
				安田 和宏	瀬川知佐子	北川 輝信	森 善 弘
				伊原 泰之	近藤 正弥	武田 哲明	高橋 茂伸
				松口あすか	小串 美保	小池 利江	田中 晴美
				岩田 圭二	林 雄一郎	竹中 公人	三輪 尚史

編集後記

▽広告ご協賛の

御礼

平成二十八年度岐阜高等学校同窓会総会の開催に伴う会報の発行に際し、広告のご協賛を賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

なお、ご紹介順序は会報の構成上、原則的に順不同となっております。何卒ご理解いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成二十八年六月十二日

岐阜県立岐阜高等学校同窓会
平成二十八年度総会運営委員会
委員会 一同

今年の会報の担当は、48年、58年、平成5年卒のメンバーが担当しました。それぞれの年代が久しぶりに旧友に会い、あの頃を少し思い出し、またあの頃の思い出の品を見つけ出そうと探しました。最初はなかなか出てこない。引越をした時に処分したとか、年末の掃除で捨ててしまったとか。そのうち1人、2人、高校時代の写真や原本を探し出してくれた。赤線いっぱいの生物の教科書、学生証、映画のチケット、学校を抜け出して見に行つた「ドラゴンズの優勝パレード」の写真、懐かしいやら、ほろ苦いやら。その後、出てくる、出てくる。

48年卒の私は60歳過ぎて最近いろんな意味で少しブルーになっていましたが、これらに触れてなぜか元気が出てきました。この節目の年に輝いていた時を振り返り、自分の過去から大きなパワーを頂いたと思います。なぜか力が湧いてくる。朝、散歩する足も軽く、「何かやろう！はじめよう！」と。これが杉山委員長言う「温故創新」なのかなと自分で勝手に解釈しました。今の自分だからこそ出来ることあるはずだ。自分のため、世のため、自分しか出来ないことがある。この世に生まれてきて、岐高に来て、多くの友や恩師に会えて感謝、感謝。そんな中、会報部会メンバーが一丸となり、今年のすごい会報が出来ました。最後に、多くの寄稿文にご協力いただきました恩師の先生、同窓生各位にはお忙しい中、誠にありがとうございました。また最後まで力の無いこの私を支えてくれた会報部会のメンバーにはほんとうに感謝します。とりわけ58年、平成5年卒のメンバーはたいへん頼もしく感じ、10年後、20年後に今回の会報を超える素晴らしい会報を発刊されることを信じております。ありがとうございました。



頭かかえて編集会議 3/19